

桜が落ちる瞬間

吳 珮綺

桜月と暖かい春の花が咲く頃、初めてこの土地に足を踏み入れました。それまで、旅行ガイドやネットモからのおすすおを読んだことがなかったため、地下鉄の乗りさすらわかりません。なにもわからないのに一人で歴史文化的な雰囲気と現代感に相互融合したこの国に来ました。

なぜ準備なしで日本に来たかという点、ただ確立されたフレームワークによって制限されたくなかったからです。観光用のガイドブックは私たちにたくさんの情報を与えてくれますが、どこに行くのか、何を食べるのか、何が起こるのかをすでに知ってしまったら、新鮮な驚きはありません。

日本人は最もふさわしいガイドかもしれません。私は日本に住む外国人の友人をガイドとして選びました。日本で育った人々にとってはこの環境と生活習慣にもう慣れていま

すから、なぜ外国人が通学路の看板と一緒に  
写真を撮るのか、日本人には理解できないか  
もしれません。しかし外国人にとっては、小  
さい頃から日本のドラマを見ていたり、自分  
の国と違ったりするので面白いのです。

2週間の旅の中で、日本の文化遺産と環境  
都市計画への献身を見ました。京都は日本で  
最も有名な古都の一つで、自然の景観に恵ま  
れ、かつては日本の首都でした。市内には多  
くの世界遺産や歴史的文化遺産があります。

人々が一瞬で時間と空間を旅するような幻想  
があります。近代化に伴い街並みも変化し、  
観光客が増える一方で、商業施設やレストラ  
ンなどの店舗も増え、新旧のトレンドが共存  
する街になりました。

古代の首都と現代性の感覚を維持するため  
に、全体的な美学を損なうことなく、2つに  
互換性を保つための規制が作られています。

また、日本の景観規制や建築基準法の中で最  
も厳しい場所でもあります。家の外観や店の

看板の色、建物の高さなど、これらは他の地域とは異なります。例えばユニクロやスタバ、コンビニなどです。それらの特徴的な色もここでは異なり、目立たないカラーマッチングにより、景観を妨げない効果が得られます。

京都は古くから受け継がれてきた伝統を守り、美しい街並みを維持しながら、多くのルールに従って街を築いてきたことが感じられます。

そして友達に住む大阪に戻った後、近くの目立たない小さな公園に入ると、突然桜吹雪が風に乗って優しく舞い始めました。花びらが頬を撫でて、まるで私を歓迎してくれているようでした。ほんの数秒で、心が震わされました。ただの桜吹雪に、人間はこんなにも気持ちいを動かされてしまいます。桜が土に落ちた瞬間、私もここで住むことに決めました。

半年後、再び大阪の地に足を踏み入れました。色々な仕事をする中で多くのことを学び、挫折やたくさんの方のストレスもありました。挫折感や逃げたいと思ったとき、いろいろな面

白い場所を探検しに行きました。ドーナツ体験工場、鉄道博物館、阪神・淡路大震災記念など。行くたびに、過去の人が何も無いところから創造するのを見て、失敗した経験を思い出し、一步一步成功へと向かっていこうと思いました。

幸せは自分の心が決めます。環境を変えることはできないけれど、自己の考え方は変えることができます。人生も常に変化しています。私は、以前は料理をしませんでしたが、日本食に慣れてない私が地元の料理を食べたいなら、自分で調理するしかありません。このように、多くのことが私を成長させてくれることに感謝します。

桜の季節はとても短いですが。しかし、桜の美しさはいつでも思い出せます。そして、桜吹雪を見たときの感動は、今でも鮮明に記憶しています。どんなに辛くても、いつも初心を思い出して、いつか私もこのどこかにもっともっと輝けるように頑張ります。